

夢のつばさ♥プロジェクトニュース特別編

夢のつばさプロジェクト10年間の歩み

～記念冊子より～

2011年3月11日に発生したマグニチュード9.0の大地震と、東北地方太平洋岸を襲った巨大津波は、多数の死者、重軽傷者、行方不明者を出し、多くの家屋財産を破壊流出させるという甚大な被害をもたらしました。

「夢のつばさプロジェクト」(<https://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/>)は、この震災で遺児・孤児になった子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心にいくつかのNPO法人の協力の下に立ち上げられました。この活動には、学生ボランティアや企業ボランティア、科学者、技術者、アスリート、演奏家のグループ、カウンセラー、医療関係者等が参加しています。2021年3月には、震災発生から丸10年の節目を迎えたことを機に、これまでの活動の記録と関わった方々からのメッセージをまとめた冊子『夢のつばさプロジェクト 10年間のあゆみ』(監修:室伏きみ子、編集:滝澤公子・相澤弥生、発行:(株)富山房インターナショナル)(写真・資料1)を作成し、支援してくださる方々や東北各地の教育委員会等にお送りしました。

今回の「夢のつばさ♥プロジェクトニュース」では、この冊子の一部をご紹介しますながら、改めてこのプロジェクトを振り返ります。



居ても立っても居られなかった…

特筆すべきは、着想から実行までのスピーディーさです。発案者の室伏きみ子氏(当時お茶の水女子大学教授・本事業会理事)は、震災発生から1か月余りで賛同者を募り、お茶の水学術事業会の理事らと諮ってプロジェクトを立ち上げました。そして学生自治会を通じてボランティアの募集を始めるとともに、桜蔭会に協力を仰いで、被災地の状況調査に着手したのです。室伏氏は、当時のことを次のように振り返ります。



その日は、多くの人たちが家に帰れず、大学の講堂で夜を明かしました。その間、講堂の大きな画面で、絶え間なく津波のニュースが流れていたのですが、巨大な水の塊が信じられないほどの速度で街を襲い、船や、車や、家を破壊し、がれきや人々を飲み込んでいく様子を目の当たりにして、これはきっと夢に違いない、夢であって欲しいと願いながら、涙が止まりませんでした。そして、何もしないで座っている訳にはいかないと、居ても立っても居られない気持ちになりました。

資料1

目次

夢のつばさプロジェクト10周年に寄せて	お茶の水女子大学 学長 室伏きみ子
夢のつばさプロジェクトの記念誌に寄せて	株式会社ブリヂストン 取締役会長 津谷正明
夢のつばさプロジェクトに関わる皆さまとともに	株式会社 富山房インターナショナル 代表取締役社長 坂本喜杏
活動の記録	
1-1. 夢のつばさプロジェクト 活動の立ち上げの経緯	
1-2. 十年間の活動: 夢のつばさ通信から	
	夢のつばさプロジェクト事務局長 滝澤公子
2. 子どもたちと学生・OB/OG スタッフの交換日記	
	第10期学生代表 河合由梨亜
3. 学生ボランティアスタッフ活動紹介、オンライン企画	
	第9期学生副代表 野村佳乃子
	第10期学生副代表 関根彩乃
メッセージ集	
1. 夢のつばさプロジェクトを支えてくださる方々から一言	
2. アドバイザー&社会人スタッフの振り返り	
3. 学生・OB/OG スタッフから	
4. 子どもたちから	
今後に向けて	
	夢のつばさプロジェクト事務局長 滝澤公子
記念誌によせて	
	NPO 法人お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子

それから数日経って、被害の様子が少しずつ分かって来るにつれて、被災された方々の心の痛みを少しでも少なくするために、何か私たちにお手伝いできることはないだろうか、私たちが出来ることは何だろうかと考えました。そして、保護者が亡くなられた子どもたちと一緒に楽しい時を過ごす場を定期的に設けて、子どもたちの成長を長く見守る活動をして行こうと心に決めました。子どもたちが成人するまでを目途に、夏や冬の長期休みに宿泊型のキャンプを開催し、そこに集う子どもたちが、共に学び、多様な活動を共有する中で、自らを育て、仲間を作り、そしてこの活動を未来に繋ぐ大人へと成長して欲しいと願って、最初は、賛同して下さった数名の方々と一緒に、活動を開始することにしました。

辛い経験をした子どもたちが、それぞれの夢を忘れず、翼を広げて広い社会に飛び立って欲しいとの願いを込めて、私たちはこの活動を『夢のつばさプロジェクト』と名付け、継続した活動を実施すると決めました。

(「夢のつばさプロジェクト10周年に寄せて」より)

株式会社ブリヂストンの支援

年に2回、定期的に宿泊型キャンプを実施するためには、安全な活動基地の確保が必要不可欠でした。室伏氏から相談を受けた(株)ブリヂストンは、すぐにCSR活動(※)の一環として、宿泊施設同社保養所「奥多摩園」を提供することを始めました。その後今日まで続くプロジェクトへの協力を、

※ Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任

同社取締役会長(寄稿時)の津谷正明氏は「当社にとり誇りであり喜び」と書かれています。



当時の取締役会や情報共有会では、大震災への対応についての討議が多くの時間を占め、会社としての事業面での対応に加えて、復興支援事業としてのボランティア活動、支援金、物資援助(特に社品である自転車、寝具、飲み水等)について審議をし、順次実施している段階でした。

その様な時期に、室伏先生から夢のつばさプロジェクトについて御声掛けを頂き、その進展を都度御話頂きました。最初のアイデア段階から、それが順次、具体化をして行き、更に広がりをもっていく様を当社関係者と一緒に、とても頼もしく賞賛の目をもって御話を伺っていたのを今でも良く記憶しております。

特にお茶の水学術事業会でのプロジェクト事務局の設立や広く他大学の学生ボランティアも招き入れる事、被災地の行政組織や協賛NPO法人、更には特別協賛企業の選定等、実務的に確実に組織を固めて行かれるのと同時に、教育者としての視点から「見守る」、「自己成長」を重視した進め方を優しく、しかし情熱を内に秘めて御話される室伏先生のお姿は今でもとても印象に残っています。

そして当社施設の見学や保養施設である奥多摩園でのキャンプも具体化してゆきました。キャンプの後で、当社の施設を訪問頂き、子どもたちや学生のみなさんと直接御話する機会も幾度か作って頂き、更には子どもたちからの御礼のメッ

資料2

夢のつばさキャンプで指導にあたる学生たちのためのガイドライン

キャンプの目的は、災害被災地の子どもたちが、キャンプを通して、仲間意識を育て、相互の助け合いやかかわり方を学ぶものです。このような趣旨のもと、基本的なガイドラインを作り、それに従うことで、指導自体がバラバラで混乱したものにならないことを願うものです。

- 1 暴力はどのような条件下でも許されません。暴力をふるった子どもに、なぜいけないかを指導者自身が上手に(子どもの年齢に従って)説明する理論武装をしてください。わからない子どもには「いけないことは、いけないのです」とキッパリ申し伝えること。また言いつ放しではなく、その子の態度を見届けてください。
- 2 同じく、乱暴な言葉による非難、批判、中傷もダメ出しをしてください。対応は1と同じです。
- 3 1、2からうかがえることは、ある種の権威がいるということです。友人的な、あるいは肉親的な愛情を持ち、それを十分に示すことは必要ですが、子ども(参加者)と指導者(学生)の距離(区別)が液状化しないことが求められるでしょう。逆に学生が子どもに慕われないという気持ちの強いとき、この距離がなくなってしまうことがあります。
- 4 相互の挨拶、感謝の気持ちを言葉で伝えることを奨励してく

ださい。それは学生自身がそのようにふるまえているかどうかに関係してきます。目上、目下に関係なくあなたはどうぞですか。

- 5 非常に大事なことは、正直な気持ちを伝えることです。特に現在の学校教育では、言葉によるコミュニケーションが重要視されていません。子どもは十分な言葉をまだ獲得していませんから、急がず待つてあげること、子ども同士で喧嘩になっている場合など、両方の言い分を十分に出し合うよう励ましてあげてください。
- 6 何か尋ねられた時、すぐに答えるのではなく、基本的には子どもが自分で考える機会を与えてあげましょう。
- 7 大変、しんどい、苛立つ、といった消極的な気持ちになるときもあるでしょうが、あなた自身を育てることになるよき機会であることを自覚してください。

以上

セージも頂き、とても有難く思っています。そこでは子どもたちや学生さんの「自己成長」を直接的に実感する良い機会ともなりました。

又、受け入れる側である奥多摩園を始めとする当社関係者にとっても、それが喜びとなり、回を追うごとに楽しみが増し、自分事へと変化する様にも接し、「自己成長」の意味の広さ深さを改めて認識させられました。

(「夢のつばさプロジェクトの記念誌に寄せて」より)



2014年夏キャンプ
(株)ブリヂストン本社表敬訪問

学生たちの活動

夢のつばさプロジェクトの特色の一つは、学生ボランティアチームが子どもに直接関わって活動し、それを大人（個人や団体）が支援するという仕組みです。学生ボランティアは、心理カウンセラーの河野貴代美氏（元お茶の水女子大学教授）の助言に基づいて作成されたガイドライン（資料2）を大切に受け継ぎ、学生代表・副代表を中心として、企画部・総務部・つながり部の三部体制で活動を続けてきました（資料3）。

資料3

学生ボランティアチーム

[連絡・調整] お茶の水女子大学

[参加大学] 大妻女子大学、神奈川大学、関東学院大学、慶應義塾大学、國學院大学、国土館大学、埼玉大学、上智大学、専修大学、津田塾大学、帝京平成大学、東京大学、東京学芸大学、東京家政学院大学、東京女子医科大学看護専門学校、東京福祉大学、東方国際学院、日本大学、日本女子大学、日本電子専門学校、日本文化大学、一橋大学、明治大学、明治学院大学、明星大学、早稲田大学 など

[分掌]

企画部：キャンプにおける企画を考案、運営を担う

総務部：新入生勧誘のイベントや募金活動の統括、SNSの運営など、主にキャンプ以外の団体の運営面に関わる活動の統括を担う

つながり部：主にバースデーのお祝いや夢のつばさ新聞の発行、卒業祝い、キャンプ閉会式でのスライドショーの作成やキャンプのアルバムの作成、統括、受験生応援を担う

※現在、学生組織を再検討中です。

子どもたちから

こうした取り組みを、当事者は、どのように受け止めたのでしょうか。この活動に長く参加している子どもたちの声をご紹介します。



私は二回目のキャンプから夢のつばさプロジェクトに参加しました。（中略）

家庭環境ががらりと変わり、普通の同年代での友達よりも早く大人になるうとしなければならぬ状況に置かれた私にとって、このキャンプは、唯一何もがまんせず、安心して自分らしくいられる場所でした。それはきっと学生や大人の方々の努力や支えがあったからだと思います。それに気がついてからは、普段できない経験をしたり、普段行けない場所へ行ったりするチャンスをたくさん与えてもらえる自分は、とても恵まれているんだと思えるようになりました。

例えば、このキャンプに来る様々な年代の人たちとの関わりは、私にとって本当に貴重な経験です。私の生活の中で、かなり年下の子とも、一回り以上年上の人とも対等に接することができる機会は滅多にないと思うので、そこから学んだ考え方や生き方、見えてきた将来について自分自身で考えさせられることが多く、それらは確実に自分の人生に生きていると感じます。そして私を心配してくれたり、助けてくれる人は沢山いると知ることもできました。

今は、自分が今までにいただいた分を、支えてくださった方々に成長した自分を見せたり、私自身が、難しい環境で苦しんでいる人たちを支える立場になることで恩返しをしたいです。

（高校生女子、抜粋）



夢のつばさプロジェクトは、私に人助けをしたいという将来の目標を与えてくれた、かけがえのない存在です。そんな素晴らしい企画に、これからも携わってみたいです。

（大学生男子、抜粋）



夢のつばさプロジェクトで得られたものはとても特別で、思い出になったものばかりです！また早くみんなに会いたいです。

（高校生女子）



昨年からは夢のつばさプロジェクトの学生スタッフとして活動に参加させていただいています。以前は子ども側として参加していましたが、学生スタッフという立場になり、改めてあの頃は目に見えていなかった学生としての活動は、新鮮で何より刺激になっています。

普段何気なく生活していても、些細なことで傷ついたり、寂しかったりする中で、この夢のつばさプロジェクトという場は、自分が最も自分らしく明るく過ごせる場所です。キャンプに限らず、連絡をこまめにしてくる学生がいたり、誕生日に送られてくるメッセージ、受験の応援メッセージはいつも励みになり、何度も読み返しました。また、時にはくだらない冗談に乗ってくれたり、悩みを親身になって聞いてくれたりしたことで、年上の兄、姉ができたみたいでうれしかったです。そんな学生の企画に対する思いや、私たち子どもに気遣ってくれる姿を見て、いつしか私も、こんな人達になりたいという夢を持つようになりました。

今はまだ成長過程ではあるけれど、いつか私も頼られるような、誰かの希望になれるような人になることができたいと強く願っています。

(大学生女子、抜粋)

今後に向けて

お茶の水学術事業会の平野由紀子理事長は、この冊子の最後に、「(この記念誌には) 詳細に、関わった人々、社会人、学生ボランティアの人々の感動、感謝が記されています。そして、子どもの育ちゆく姿に、心を揺さぶられ、ともに喜ぶ笑顔にあふれています。これまでの皆さまのお働きに、心から敬意を表さずにはられません。また、二十一世紀の日本におけるこのプロジェクトの記録を残されたことの意味は、小さくありません。心から御礼申し上げます」(「記念誌よせて」と記しました。

このプロジェクトに立ち上げ時から携わり、事務局長を務める滝澤公子氏は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により従来のような活動ができない現況を、子どもたちの支援にとって大きな痛手だと憂慮しつつも、「十年前、『何か、何とか私たちにできることを』と切り込んでいった頃を思い出し、



2011年冬キャンプ

初年度は、学生スタッフやスタッフの研修を兼ねて8月に2泊3日のプレキャンプを行い、12月に3泊4日のクリスマスキャンプを実施しました。

東京見物、クリスマス会、運動会だけでなく、子どもたちに自ら学ぶ習慣を身に付けてほしいと、朝、勉強の時間を設けました。この「朝の勉強会」は今も受け継がれています。

この先も、新しい状況に果敢にチャレンジしてまいりたいと思います」(「今後に向けて」)と述べています。

10年前は、この活動が迅速にスタートしたことに意味がありました。そして今は、この活動が10年間にわたって継続し、更に未来に引き継がれようとしていることが、大きな意義を持っています。引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

(文責：お茶の水学術事業会事務局 加納由美)

「桜蔭塾」のご案内

<http://www.ouinjuku.com/>

2021年4月より、桜蔭会員のための新しい学びの場「桜蔭塾」がスタートしました。Zoomを使ったオンライン講座ですので、ご自宅やお好きな場所から、ご参加いただけます。

9月以降開催予定の講座

2021年9月11日(土) 14:00-15:30
三浦徹先生(お茶の水女子大学 前副学長)
イスラーム世界は何を語るか ~日本との交流~

2021年10月30日(土) 14:00-15:30
土屋賢二先生(お茶の水女子大学 名誉教授)
<タイトル・未定>

2022年1月29日(土) 14:00-15:30
内田伸子先生(お茶の水女子大学 名誉教授)
AIに負けない子育て ~ことばは子どもの未来を拓く~

2022年2月19日(土) 14:00-15:30
三浦 徹先生(お茶の水女子大学 前副学長)
家族と女性(イスラーム世界・その2) ~ヴェールをこえて~

■お問い合わせ

桜蔭会事業部 <https://www.ouinjuku.com/toiawase>



ご寄付のお願い

【口座】三井住友銀行 大塚支店 (店番号 227)

普通 1284200

【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長
平野由紀子

※夢のつばさ♥プロジェクトの専用口座です。

※恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

連絡先：事務担当 滝澤公子

TEL & FAX：03-5978-5362

Email：tsubasa@npo-ochanomizu.org